北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 4

令和４年 12 月８日（木）

全道研究担当者研修会

体研連　大牧 眞一委員長

令和４年 11 月 26 日（土）に第 32 回全道研究担当者研修会が札幌市立幌南小学校で行われました。今回は初の実技研修会で、第１部は小中分かれての器械運動の実技研修、第２部は A-bank の仁井有介氏による陸上運動研修が行われ、全道各地から多数の参加がありました。国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官　塩見英樹　様と札幌市教育委員会指導主事　岩田　悟　様をお招きし、講評をいただき充実した素晴らしい一日となりました。

第１部　マット・跳び箱研修

○小学校の部　『藤原先生による研修』

第１部小学校の部は、札幌市立有明小学校の藤原良史先生が講師を務めました。「器械運動って何のために学ぶの？」と運動の意義を全体で考えてから実技研修を行いました。後転、開脚跳びの指導を中心にどうしたらできるようになるのかと、できない子にどのように補助をすれば良いのかを中心に研修を行いました。

藤原　良史　先生

○中学校の部　『佐藤校長先生による研修』

第１部中学校の部は、釧路町立遠矢中学校の佐藤　毅校長先生が講師を務めました。マット運動の開脚前転や倒立前転など子どもがつまずく要因とできるようになるためのスモールステップで研修を行いました。

佐藤　毅　校長先生

小学校、中学校、どちらの部も参加された先生方が汗をかき、楽しみながら学ぶ、笑顔あふれる研修でした。

第２部　陸上運動

○『A-bank　仁井有介氏による研修』

第２部は小学校中学校合同で陸上運動の研修が行われました。走り方の三つのポイント、①まっすぐな姿勢、②弾む足裏、③鋭い腕振りについて研修が行われました。子どもにどのように指導するか、実技を中心に研修を行いました。

仁井　有介　氏

どの研修も先生方が話し合い、関わり合いながら各支部の繋がりを深めている様子が見られ、初めての実技研修会は大盛況で終えました。２年おきに開催する構想もあり、来年度以降も楽しみな研修会でした。

※研修会については、機関紙 121 号にも掲載されます。　　（文責：広報部　髙橋）